

10月から消費税が8%から10%にアップしました。ウィキペディアによれば、『消費税は、消費に対して課される租税。1953年にフランス大蔵省の官僚モーリス・ローレが考案した間接税の一種であり、財貨・サービスの取引により生じる付加価値に着目して課税する仕組みである。我が国においては、「消費税法に規定する消費税」と「地方税法に規定する地方消費税」の総称であり、付加価値税のひとつに分類される。』世界の国々の消費税をみると、2016年の時点で、ヨーロッパの国々は20%以上が多く、高福祉国家のスカンジナビア3国では25%です。フランス・英国は20%、ドイツは19%、イタリアは22%、オーストラリア・韓国は10%、カナダは8%となっています。アメリカでは消費税は導入されていません。今後も少子高齢化とともに、消費税は貴重な財源となり、ジワジワと上がっていくと予想できます。とにかく、その使途は福祉、保健サービスや子育て支援に向けて欲しいと思います。



### [最近目立つ病気]

手足口病は一時下火になりましたが、9月中旬から再び小流行がみられました。今夏2回目の罹患という子どもたちがかなりいらっしゃいました。2回目のウィルスは高熱は少なく、昔からの典型的な症状でした。

RSウィルス感染症はあいかわらず流行を繰り返しています。生後半年以内の児がかかると、重症化しやすく入院が必要になることもあります。

気温の変動が大きく風邪に罹った後、咳がなかなか治らない人が目立ちます。だんだん悪化する咳は百日咳の疑いもありますので、特に乳児がいらっしゃる場合はご注意ください。年長児や小中高生や成人の方は軽い風邪症状でも乳児に接する時はマスクをして感染予防に努めましょう。

溶連菌感染症が涼しくなるとともに増加してきました。マスクや手洗い・うがいで感染を防ぎましょう。

またウィルス性胃腸炎が増えてきました。腹部を冷やさないように腹巻やバスタオルを巻いて寝冷えを防ぎましょう。

インフルエンザの流行が、金沢市内の一部地域でみられています。今年は6月までインフルエンザがみられ、当院では7月・8月はありませんでした。9月に入って再びみられはじめました。いずれは1年中、流行を繰り返すようになるかもしれません。

### [溶連菌感染症]

A群溶血性連鎖球菌(以下、溶連菌)は、上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌としてよくみられる菌です。

日常よくみられる疾患として、急性咽頭炎の他、膿瘍、蜂巣炎、あるいは特殊な病型として猩紅熱があります。これら以外にも中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、髄膜炎などを起こします。また、菌の直接の作用でなく、免疫学的機序を介して、リウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすことが知られています。ここでは、溶連菌咽頭炎について説明します。

A群溶連菌咽頭炎は、いずれの年齢でも起こりますが、学童期の小児に最も多いです。感染症発生動向調査のデータによると、冬季および春から初夏にかけての2つのピークが認められています。

通常、患者さんとの接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学

校、こども園などの集団内の感染も多いです。感染力性は急性期にもっとも強く、その後徐々に減弱します。急性期の感染率については兄弟での間が最も高率で、25%と報告されています。学校での咽頭培養を用いた研究によると、健康保菌者が15~30%あると報告されていますが、健康保菌者からの感染はまれと考えられています。

潜伏期は平均2~5日ですが、潜伏期での感染性については不明です。突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。猩紅熱の場合、発熱後12~24時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮疹が出現します。特に腋窩、ソケイ部など皮膚のしわの部分に多く、これに沿って線が入っているようにみえることもあります。顔面では通常このような皮疹は見られず、額と頬が紅潮し、口の周りのみ蒼白にみえる(口囲蒼白)ことが特徴的です。また、舌の変化として、発症早期には白苔に覆われた舌がみられ、その後白苔が剥離して莓舌となります。

合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生ずることもあります。

診断は咽頭培養により菌を分離することが基本ですが、溶連菌を検出する迅速診断キットが便利です。

治療にはペニシリン系やセフェム系抗生剤が使われます。いずれの薬剤も7~10日間は確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、また、うがい・手洗い・マスクなどの一般的な予防法が大切です。

(国立感染症研究所ホームページ参照)



### [百日咳に対するワクチン対策]

こどもの百日咳は、四種混合(DPT-IPV)ワクチン(定期接種、不活化ワクチン)で予防します。生後3か月から4週間隔で3回受けると予防効果が高くなります。生後3か月でB型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌などと同時接種で受け、BCG

ワクチンの接種の前に3回めを終わらせておくか、BCGと同時接種することをおすすめします。

近年、小学校入学後の百日咳患者さんが増えています。四種混合ワクチンの接種者の抗体低下による百日咳の感染が心配な場合は、MRワクチンの2期の時期に合わせて三種混合ワクチンを任意接種で接種します。

11~12歳には、ジフテリアと破傷風予防の二種混合(DT)ワクチン(定期接種・不活化ワクチン)を定期接種します。しかし、二種混合ワクチンには百日咳ワクチンが含まれていないために、成人に百日咳が流行するという問題が現実にあります。百日咳にかからないためには、二種混合ワクチンに代わって三種混合(DPT)ワクチンを任意接種で接種します。上記の三種混合ワクチン(DPT)の任意接種は日本小児科学会が推奨しています。因みに当院での任意接種料金は¥4,100です。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター(Tel:222-0099)では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は12/15の予定です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチン(ロタウイルス・おたふくかぜ・インフルエンザ・B型肝炎)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院では令和2年2月29日までプレミアム商品券を使用できます。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

